

## 第1回 防護柵への付着金属片調査委員会 要旨

日時：平成17年6月8日（水）19:00～20:30

場所：国土交通省11階 特別会議室

出席者：赤羽委員、飯田委員、伊藤委員、大西委員、住田委員、元田委員、山岡委員

（谷口道路局長より挨拶）

（委員長に元田委員、副委員長に赤羽委員を選出）

<議事>

### 1. 緊急点検結果について

（事務局より緊急点検結果について説明）

### 2. 収集金属片の分析状況について

（事務局より直轄区間のデータの分析結果及び大宮管内の詳細分析結果について説明）

○付着後に他の車両の接触等で、金属片の付着方向が変わっている可能性があることを考慮する必要がある。

○金属片の破断状況が全て引張破壊となっているが、どの程度の力がかかったか分からないか。

また、ひっかかる部分が大きい程大きな金属片になるなど、三角形の底辺と長さには相関がないか

○歩道側の付着はなかったのか

→現在のところ報告は受けていない。

○自動車の部品とは異なる2片について、どのようなものに使われるものなのか専門家に聞けばわかるのではないか

○今回の目視による調査では接触痕の「ある／ない」の判断は難しいと思われる。今回の調査で接触痕が「ない」と判断されたケースでも、さらに細かく調査すると接触痕が「ある」のではないか。

○今回の点検では時間が限られた中で行われたものであった。接触痕の「ある／ない」に限らず今回示された点検結果については、精査する必要があると感じた。

○どの程度前に付着したかわからないか。例えば、それにより1年間でどの程度の数がつくのかわかるのではないか。

○撤去にはどの程度の力や作業が必要なのか。また、車両からはがれたものと人為的に挟み込んだものでは変形の状態が違うのではないか。

→ねているものはペンチで引っ張って外し、ボルトに付着したものはボルトを緩めて外している。

### 3. 分析の進め方について

（事務局より進め方について説明）

○材料分析結果が不明となっているものはどのようなものか

○金属の特定はできているが、通常国内の車両で使われているものではない

○インターネットで調べてみると、米国オレゴン州で採用されているガードレールは車両との接触面が狭く、ボルトも接触面に出ない構造であった。このような構造では付着の確立は相当軽減できるのではないか。

○継ぎ手部で順方向に付着しているものは不可解である。逆行して付着した可能性もある。例えば実験的に確かめるなどの方法もある。

○実際に実験して、現象を再現できるのかどうかを検討する必要もあるのではないか。

→実験については検討させていただく。

### 4. 今後のスケジュールについて

（6月21日の午後に現地調査と第2回委員会を開催することを決定）